


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【石川県】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	宇出津小学校 6年 35人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (音楽) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	日本と世界の音楽に親しみ、日本と世界の文化の理解、多様性を尊重する態度を育てる。
5 取組内容	【1時／4時間】 ・「越天楽今様」を歌ったり、雅楽「越天楽」の鑑賞や、使われている楽器についての説明を聞いたりして、日本に古くから伝わる音楽や楽器についての学習意欲を高める。 【2時／4時間】 ・雅楽「越天楽」を「楽器の音色」「旋律」「リズム」に着目してもう一度鑑賞し、自校のALT(アメリカ人)に紹介するための「おすすめキャッチコピー」を考える。 【3時／4時間】 ・世界地図と5か国(イギリス・トルコ・中国・アルゼンチン・インドネシア)の国旗やそれぞれの国の楽器の写真等の掲示をもとに音楽を聴き、それがどの国の音楽かというクイズに答える。 ・それぞれの楽器の特徴や説明を聞き、世界の国々の音楽に対する関心を高める。 【4時／4時間】 ・前時に聴いた中から同じ音楽を選んだ者同士、3～4人のグループになって、「楽器の音色」「旋律」「リズム」に着目して何度も聴きながら、その曲の「おすすめキャッチコピー」を考える。 ・それぞれのグループで考えた「おすすめキャッチコピー」を発表し合い、「キャッチコピー」によってもう一度聴いてみたいと思った音楽を全員1曲ずつ選び合う。選んだ人数が多かった順に、5曲をもう一度鑑賞し、最後に学習のふり返しをする。
6 主な成果	・一つの音楽を何度も聴きながら、楽器や音楽の特徴やよさを言葉で表現しようとする姿が見られた。また、どの国の楽器や音楽にも、それぞれによさがあるということに気づいたり、その他の国の楽器や音楽

	<p>への関心を高めたりすることもできた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 演奏を聴いてその音楽の国を当てるというクイズ形式で学習を進めたことにより、聴き慣れない国の音楽や楽器に対する関心を高めることができた。 • 雅楽「越天楽」のよさをALTに紹介したり、自分がいいなと思った国の音楽のよさを友達に伝えたりするために「おすすめキャッチコピー」を考えるという相手意識・目的意識を明確にした活動を工夫したことにより、学習に主体的に協働的に取り組む姿が見られた。 </div> </div>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今回、視点を与えることによって、「聴く」という活動がより具体的に探究的なものになると共に、言語表現がしやすくなると考え、「楽器の音色」「旋律」「リズム」という3つの要素に着目させた。しかし、世界の国々の音楽に親しむという、本時のねらいを考えると、もっと自由に音楽を聴き、親しみ、そのよさを伝え合う学習活動を展開できるとよかった。 • 3～4人のグループを作ると9グループになり、授業のタイムマネジメントが難しくなるが、「キャッチコピー」についての説明や、感想交流などの場面で、もっと児童が発言できるとよかった。児童が積極的に伝え合うことのできる授業づくりをしていくことが課題である。
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度も、5年生で、さまざまな声の出し方や歌い方による世界の音楽を鑑賞し、6年生で、さまざまな楽器の演奏による世界の音楽を鑑賞する。どちらにおいても、それぞれの特徴やよさを感じ取るとともに、その国の文化を尊重する気持ちを育てていく。 • 両学年共に、日本にも長く伝わる音楽文化があることに気づき、その特徴を感じ取ったり、その美しさを味わったりすることができる授業を実践していく。